

---

# あだちさん

あだちさん

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

あだちさん

### 【コード】

N0041Q

### 【作者名】

あだちさん

### 【あらすじ】

あだちさんの、シングルマザー生活。

## はじめに(前書き)

自分の体験に基づいた、ほぼノンフィクションなお話です。

## はじめに

あたしは、あだちみか。

今年、最後の三十代を迎えちゃう、シングルマザーです。

シングルになって、早9年…。

いちお、4児の母ってやつなんだけど、一番上は就職し、今年成人するから、もう4児の母とは言わないのかな？

一番下も中学生だし…で、母の仕事終了間近…って感じ。

そんなあたしの自慢は、4人の子供達。

自他共に認める、いい子達です。ホント。

「あんたの子供とは思えん」

「どうしたら、そんなにいい子に育つの？」などなど、皆に言われますから…。

だからって、何事もなく現在に至る…訳じゃないです。

母一人で、子育てして、家事して、仕事して…ですから。

## 結婚生活

あたしは、いわゆるデキ婚ってやつです。

もちろん、双方の親から猛反対されましたが、妊娠しているんじゃない…と渋々承諾してもらいました。

幸せな結婚生活を夢見ていたのもつかの間…。

旦那、働かない。

働いたかと思うと、すぐ辞める…の繰り返し。

家にいると、近所の目があると言っことで、朝から晩までパチンコ。

拳句の果てには、消費者金融で借金…。

本当なら、この時点で離婚を決意すればよかったのですが、子供達は小さかったし、子供達には父親が必要だと思ったし、旦那が働かないなら、自分が働けばいいんじゃない…と思い、朝も夜も働きました。

そのかいあって、何とか借金も完済！

旦那も、心を入れ替えて真面目に働く約束してくれたので、今度こそ幸せになれる…と思っていただけ、現実はそう甘くはなかった。

## 結婚生活破綻

旦那が就職し、パチンコにも行かなくて済むように…と、バイトも始めた。

あたしのバイト代も合わせれば、子供がやりたいって言っていた習い事もやらせてあげられるかも…と考えていたその矢先…。

旦那がパチンコが止められなかった事、おまけに新たな借金が判明。

やっぱり、ギャンブル癖や、借金癖って直らないのかなあ…思っていたら、

「一生懸命働いてもらった給料を、お前や、子供達が遣うのは馬鹿馬鹿しいから働きたくない」と言われ、結婚には向かない人だったんだなあと思った。

仕事の出勤時間になると、「頭が痛い…」などと言って仕事が見がちになった。

でも、バイトは休まず行くのでおかしいなあと思っていたら、バイト先の女性と浮気している事も発覚。

もう、結婚生活を続けていくのは無理かなあと何度も思った。

働かない、ギャンブル、借金、浮気…。

離婚するには、十分な理由だろう。

市役所で離婚届をもらい、書いては破られ…を何度も何度も繰り返した。

そんな中、たった一枚破られなかった離婚届は実家に預けた。

普通なら、そんなものは預かりたくないと思っただろうけど、あたしを見て、快く預かってくれた。

この時のあたしは、生理も止まってしまっただけで激ヤセしていた。

人並みの身長に関わらず、体重は小学生並みの30キロ代しかない。  
ったし。

子供達を食べさせるので精一杯だったし、気苦労も多かったせい  
だと思うけど。

でも、すぐには離婚の決断が出来なかった。

あたしの両親が離婚しているので、両親が離婚した時の子供の気  
持ちや、両親が離婚後の子供の負担を嫌と言っほど知っていたから  
…。

## 離婚へのカウントダウン

しばし、悶々とした日々を送っていたが、離婚を決意するまで、長くはかからなかった。

旦那は今までも、「しつけ」と言っ、よく子供達を殴ったりしていた。

幾度となく間に入って、旦那に止めるように言っても、「しつけだから」と言っ取り合ってもらえなかった。

旦那の親にも相談したが、「それはしつけだから、当然」と言われ、まるでお話にならなかった。

そんな旦那の子供に対する暴力が、日々エスカレートし、

「あいさつしなかった」

「目つきが気に入らない」

「気持ちよく寝ているのが気に入らない」

などと、訳のわからない理由で子供達に暴力を振るうようになった。まるで、子供達が泣き喚くのをを見るのを楽しんでいるかのような…。

こいつ、絶対頭おかしい…。

今だったら、普通に逮捕ものだろう…。

子供達への理不尽な暴力は本当に許せなかった。

出来る事なら、すぐに離婚したかった。

でもあたしには、離婚届を預かってくれど、帰れる実家はなかった。

子供の学校の事もあつたし…。

でもすぐ冬休みだったので、子供達には「もう少しだけ我慢してお母さん頑張るから」とお願いし、子供が冬休みに入るまでは、平

静を装って普段通りの生活を続けた。

子供達には、危害が及ぶことがないように…。

この頃の子供達は、あたしの目から見てもおかしかったし、周りの目から見てもおかしかった…と思う。

旦那が留守の時の子供達はとても元気なのに、旦那が帰ってくる  
と誰一人として下を向いたまま顔を上げることが出来なかったし。

旦那は、その態度が気に入らないとかでも怒ってたっけ…。

子供が通っていた保育園の先生などにも、「お子さん達、様子が  
変ですけど何かあったんですか？お母さんもすごく痩せて普通じゃ  
ないと思うんですけど…」と言われてましたから。

## 離婚

子供達に危害が及ぶことなく、無事に冬休みを迎えた。

離婚日当日…。

旦那が出掛ける前にこっそり家の鍵を回収し（家に入れないように）、旦那が出掛けたのを見計らって、実家から回収してきた離婚届を持って、子供達と共に市役所へ。

いざ市役所に行ってみると、離婚届を提出しておしまい…という訳にはいかず、

改姓届？だの（離婚後の姓はどうするのか…とかいう書類）、  
国保の加入手続きだの（旦那の扶養から抜けるので）、  
なんだかんだでいろいろな手続きがあり、思いのほか時間がかかった。

ホントは、家裁に行つて、親権の手続き…とやらもしなくちゃいけなかったけど、年内には無理との事だったので、その件は年明けに繰り越し。

家裁の他にも、まだまだやらなくちゃいけない事はあったけど、年明けに片付ければいいや…って。

どうせ無職だし。（離婚前、個人経営のお店でバイトしていたんだけど、そのの経営者が自殺してしまった為、無職になってしまった）

何とか年内に、あくまでも形だけだけど、離婚成立。

夜、子供達と家に戻り、旦那に「離婚したから」とメール。

旦那が家に戻つて来ることは想定内だったので、戸締りを完璧にし

て、夜にもかかわらず電気もオール消して、居留守。

案の定、旦那は家に帰って来て、自分が家の鍵を持っていない事に気づいた様で、しばらくドアをガシャガシャしたりしていたけどシカト。

その間、子供達はすごく怯えていたけど、「もうちょっとの辛抱だから頑張つて！」とひたすら励ました。

そんな時間がしばらく続き、旦那も諦めたようで、急に静かになったかと思うと、車が走り去る音が聞こえた。

旦那がいなくなったことを確認し、しばらくしてから家中の電気をつけた。

「もう、お父さん家に来ない？」と不安げに聞く子供達。

「もう来させないから大丈夫だよ」とあたしが言うと、子供達の安堵な表情。

まだまだ書面上だけだったけど、子供達の顔を見てみると、離婚してホントによかった！って思った。

それと同時に、もっと早く離婚すればよかった…とも思った。

悪く言えば無計画で、行き当たりばったり…的な離婚だったと思う。

本当は、いろんな決め事してから離婚すればよかったんだろうけど、離婚前に旦那や旦那の親とも何度も話し合いもしたけど、全然お話にならなかったし。

子供達の事を考えると、そんなことで離婚を引き伸ばしにしたいはなかったし。

旦那の親にも、離婚したことを報告。

子供のことを何一つ考えてない、自分勝手な女だな〜と思われる

たけど、あたしの事をどう思おうが、そんな事どうでもいいし。

この日を境に、子供達は少しずつ笑顔を取り戻し、表情が明るくなった。

あたし的には、いろんな悩みや問題を抱えていたけど、子供達の顔を見ているだけで、どんな事でも頑張れる…！そう思えた。

## 新しい生活

母子家庭になって、初めての新年を迎えた。

子供達も冬休みを終え、それぞれ学校や保育園に通う生活に戻った。

程無くして、周りの人達に、「お子さん達、とても表情が明るくなって、とても穏やかに生活していますよ」と言われるようになった。

その言葉を聞く度、離婚してほんによかったと思った。

子供達が学校などで留守にしている間に、家裁に行ったり…と、去年の離婚後、やり残していた事を片付け始めた。

粗方片付いた所で、元旦那に連絡。

離婚後、子供が名字が変わることは嫌だったので（一番上が、もう思春期だったし）、離婚後も元旦那の姓を名乗ることを伝えた。

我が家は持ち家だったが、元旦那の名義の為、出て行くように言われたので、引越し代やら敷金礼金などで掛かる見積もり金額を提示し、「あたしは、これだけすぐに用意してくれたら、すぐにでも引越すから。もし払えないなら、あたしは家をよこせとは言わないけど、最低限、子供達が一人立ちするまではここに住み続けるから。」と言うと、「金は払えない」と言うので、そのまま住み続けることに…。（引越し代やら敷金礼金などは、きちんと業者に見積もってもらったので、バカみたいな金額を提示した訳じゃないんですけどね）

すると元旦那が、「時々、子供に会わせて欲しい」と言うので、子供達に確認を取ると却下。（当たり前なんですけど）

その旨を伝えると、「お前が、俺を子供達に会わせないようになっているだけだろ。子供達は、本当は俺に会いたがっているのに。子

供達が可哀想だ。お前が育てても子供達は絶対ろくな人間にはならない……」などと、散々文句を言われたり、ののしられもしましたが、電話を切って、これですべて終わったんだ……としばし安堵。

そして、元旦那の置き土産として、元旦那が作ったあたし名義の消費者金融のカードが手元に残った。

それもあたしの知らないところで、元旦那が勝手にあたし名義で作った上に、おまけに借金返済中のやつ。

あたし名義だから、元旦那は自分が支払う義務はないし、消費者金融からの請求は、名義人のあたしに来るから……ってことで置いて行ったんだな。

ふざけるな!と思ったが、もう二度と元旦那とは関わりたくなかったから連絡を取りたくなかったし、金に関わる事は何かと揉めるし、解決の糸口が見つかるまでに時間もかかると思ったので、そんな男を選んだ自分が悪いのよ、高い授業料だったぜ……と自分に言い聞かせた。

そういえばあの頃は、消費者金融のCMが盛んだったな。  
今じゃさっぱり見ないけど。



## 厳しい現実

子供達も落ち着いてきたし、自分が片付けなければいけないことも片付いたので、仕事を探し始めた。

キレイ事言っても、世の中すべて金ですから。

金が無ければ、ご飯を食べることも、病院にかかることも出来ない訳で…。

愛だけじゃ生きていけません（笑）

ハローワークにも通い、求人誌もすみからすみまで読み漁った。就業形態や、職種を選んでいる余裕などなく、自分の条件に合うような会社を見つけるとは、電話をしまくったり、面接にも行きまくった。

でも、大概は電話の時点でお断りされました。

運良く面接までたどりつけても、結果がわかるのが半月後…で、お断りとか。

電話でも面接でも言われたのが、やはり子供の事。

「子供が病気とかになったら休むんでしょ？」

「子供が多いから、一人風邪でも引いたら、しばらく休むよね」

「母子家庭じゃ、子供を見てくれる人いないでしょ？」

などなど…。

すごく理不尽だ…とも思いましたが、採用する側からすれば、頻りに会社を休まれたりしたら、仕事にも影響が出るから困る訳で。

求職活動をしていても、無職には変わりがないので当然無収入。

子供には言えないけど、子供の為に貯めてあったお年玉などを生活費に充てて生活していました。（子供よ、ゴメン）

そんな生活をしていれば、お金が底をつくのも時間の問題。（借金  
の返済もあったし）

さすがに生活が困窮しそうだったので、市役所に生活保護の申請  
の相談に行き、現状をすべて話すと、「求人があるのに、仕事が無  
いわけがない。仕事も探さず生活保護を受けようなんて甘い。」と  
一言だけで、まともに取り合ってすらもらえなかった。

市役所はあてにならない。

親から援助は受けられない。（自分達の生活があるから当然なん  
ですけど）

元旦那からも援助は受けられない。（無職だし）

そんなこと考えても何がどうなる訳でもないし、考えるだけ時間  
の無駄なので、ひたすら求職活動に励んだ。

求人誌は、擦り切れるんじゃないかと思うくらい、何度も読み返  
した。

そのかいあってか、離婚してから二カ月半、アルバイトの面接が  
一つだけ受かった！

これで、少しでも生活が楽になるといいな…と思いつつ。

あの頃は、今より仕事多かったのに、あたしからすれば、今より  
ホント、就職氷河期でした。

おまけに、あたしの場合、元旦那の持ち家に住んでることもあつ  
たので、その当時は母子家庭で受けれる手当が何一つ受けられなか  
ったので、ホントに困窮しまくってましたが、雨風しのげる場所が  
あるだけ幸せ…と、自分に言い聞かせていました。（離婚後、一年  
近くかかって、やっと母子手当を受けられるようになりました。）

今はこんな時代だけど、母子家庭でも安心して仕事や生活が出来るような、周りが理解してくれて受け入れてくれるような環境になってくれるといいなあと思っています。

## バイト開始

子供達が春休みに入る前から、バイト開始。

採用理由は、「あなたなら根性ありそう」との事。

そりゃ根性ありますよ！一家の大黒柱だし！？

今まで、どこの会社を受けても不採用だったあたしを、採用してくれただけあるって会社でした。

人の入れ代わりがめっちゃ激しい…というのか、人が定着しないような職場でした。

最初は平日の昼間だけ働いていたのですが、人出不足だった為、「夕方も来てくれないか？子供連れて来てもいいから…」と言われたので、子供達を連れて、夕方働きました。

しばらくそんな生活を続けていましたが、子供達の夕飯が毎日コンビニ弁当になってしまい、夕飯代が高くつくわ、何より子供達の健康にもよくない…って思い、夕飯は作って家で食べさせるようにし、子供達には淋しい思いをさせて申し訳なかったけど、家で留守番させるようにしました。

そのうち、夜も人がいない…って事で、子供が寝てから、深夜も働き始めました。

いいのか悪いのか、ホント忙しかったし、めっちゃ働きました。

いくら働いても所詮アルバイトだったし、いろいろ問題もあったので、大して稼げなかったけど、無職よりは全然まし。

それに、今までどこの会社を受けても不採用だったあたしを採用してくれた会社だったから、めっちゃ会社には感謝してたし、少しでも会社の役に立てればいいなあと思っていたので。

でも正直、子供達の事を考えると、今の生活はまずいなあという気持ちもあった。

仕事ばかりで、子供達にろくに構ってあげる時間なかったし。

会社には悪いなあって気持ちもあつたけど、今のところよりいい仕事があれば転職したいなあと思ったので、仕事の合間を見つけては、ハローワークに行ったり、求人情報誌を読んだりしていた。

そんな矢先、事件発生！

## 子育ての大変さ（前書き）

事件について触れる前に、ちょっと子育てのことを書いてみました。

## 子育ての大変さ

シングルに限らず…ですが。

今は子供を虐待する親がホント多くて、悲しいニュースが多い世の中ですが、そういう親の気持ち、わからなくはないです。

子供は確かに可愛い。

そんな可愛い子供に、手を上げることなく育てたい…って思うのが親心。

あたしの場合ですが…。

あたしは若くして親になったので、一番上の子を育てる時は、育児書やら読みました。

赤ちゃんが泣く時は、こうしたらよい…とか、いろいろ書いてありましたが、実際育ててみると、育児書通りになんか、子供は育たない。

何をしても泣き止まない子供を抱っこしながら、泣きたいのはこっちの方だよ…と思ったことも多々あったし。

自分は眠いのをこらえ、寝ない子供をおんぶして夜中に散歩したり、子供が寝付くまでドライブしたり…。

子供はみんな未熟児だったので、検診で発育不良と言われ、悩んだこともあったし。

子供が大きくなるにつれ、第一次反抗期を迎えた頃から、子供をよく怒っていました。

手を上げたこともあります。

子供を怒っては、子供の寝顔を見ながら、今日も怒り過ぎちゃったよな、ホントゴメン！と反省を繰り返す日々。

そんな自分がすごく嫌だったので、イラつとしたら、自分が落ち着くまで、子供から離れるようにしていました。

自分が落ち着いたら、何事もなかったかのように、子供に接することが出来たので。

今になってみると、あの頃はたわいもないことで怒ってばかりいたんだなあと思う。

自分の子供が、大分自分の手を離れて、自分の気持ちにも余裕が持てるようになったからだと思うけど、子供を叱ってる親を見ると、そこまで怒らなくてもいいのに…と思えたりもするようになったし。たまたま子供と一緒にいる時に、そういう場面に遭遇した時があって、「あれは怒り過ぎだよね」となどと子供と話していたら、「お母さんもあんなだったよ」とさらり。

でも、親は親で必死なんだよね。

手探り状態の中で、一生懸命子育てしてるわけだし。

神様のようには、慈愛に満ちた心で子供を育てるなんて無理。

仏の顔も三度まで…と言うように、神様ですら、心穏やかでいられるのは三回までが限界で、四回目は放棄…って事だから。

子育ては、四回目だからって放棄出来ないしね。

子育てが辛い時は、子育て放棄しない分、自分は神様よりえらいんじゃない!と思うてもいいんじゃないかな。

だからって、子供を見下したらダメだけど。

いくら自分の子供でも、子供と思うんじゃないかって、一人の人間と思えば、幾分気持ちは楽になると思う。

一人の人間だから、理解出来ないこともたくさんあるし、自分と衝突もするし、意見も合わないこともあるんだなあ…みたいな感じで。

どんなに今が辛くても、夜明けが来ない夜はない。

上を見ればキリがないように、下を見ればキリがない。

自分がめっちゃめっちゃ辛い時、自分より辛い思いをしてる人はたくさんいる。

そういう人に比べれば、自分は全然幸せなんだ…って。

あたしはそんな感じで生きてるし、子育てしてます。

だからって、自分の気持ちに余裕が持てるようになった今でも、子供を叱ることはあるわけだけど。

さすがに、今となっては手は上げませんけど。

でも、子供が大きくなると、嫌でも怒ることも少なくなってきました。

子供もきちんと自分の意見を言うようになるので、対等に話をする事が出来るようになりますので。

今となっては子供というより、よき話し相手です。



## 育児は育自

子供を育てていると、いろんな壁にぶつかったりします。

逃げ出したくなることも多々あるけど、子供と一緒に乗り越えた時、自分もちよっとは成長出来たかな？と思えたりもします。

言い方悪いと、一番上の子供は、親にとっては初めての子育てなので、子育て練習台！？みたいなどころがあるようなないような…

(汗)

上の子供で経験した事を生かして子育て出来るから、二人目三人目になると、子育ては楽になるって言うんじゃないかと思います。

世間ではカードゲームが流行っている頃、一つ目の事件が発生しました。

子供が、お店の物を盗んでしまったのです。

いわゆる、万引きってやつです。

正直、信じられなかったし(まさか、うちの子が…状態)、すごくショックでした。

子供と、いろいろ話をしました。

どうして、お店の物を持ってきちゃったのか…、などなど。

話を聞いてるうちに、あたしに問題有りじゃん…ということが判明。

あたしが仕事をしていても、稼げる額はたかが知れてる。

もちろん、子供達に、おこづかいなんかあげる余裕もなかったし。子供もそういうことがわかっていたから、「買って欲しい」の一言が言えず、このような結果になってしまった訳で…。

でも、いけないことはいけないので、子供にきちんと話した。

「お母さんが仕事をしてお金をもらうように、お店の人も商品を買って来て、お客さんが買ってくれることによってお金をもらえるんだよ。それを勝手に持って来ちゃったら、お店の人はお金がもらえなくなるから困るんだよ。」などなど。

そして、子供を連れてお店に行き、お店の方に事情を説明して、子供と二人で謝った。

子供に、あたしの想いが伝わりますように…と。

この件以来、子供が万引きすることはなくなった。

あたしも子供の事を考えて、子供のお小遣い程度のお金を、「何かあったら使ってね」と、家に置いて置くようにした。

のですが…、

これが次の事件のきっかけになるなんて、この時は夢にも思っていなかった。

## 理想の家庭像（前書き）

あくまでも、個人的に思ったことを書いてみました。

## 理想の家庭像

あたしの理想は、専業主婦になることです。

旦那さんは外で仕事して、奥さんは家で家事して…みたいな生活に憧れます。

今の御時世だと、偏見…とか思われるかもしれませんが。

子供が出掛ける時には「いつてらっしゃい」、帰って来たら「お帰りなさい」って言ってあげたい。

あたしには、「いつてらっしゃい」は言ってあげられるけど、「お帰りなさい」は言ってあげられないので。

夕飯も、子供達には出来立てのものを食べさせてあげたい。

あたしには、夕飯を作り置きしてあげることしか出来ないのです。

子供がそばにいて欲しいと思う時は、そばにいてあげたい。

あたしには、そんな時ですらそばにいてあげること出来ないのです。

子供が学校行事に参加して欲しいと思っても、平日だと参加してあげる事が出来ないのです。

子供達は決して淋しいとか口にはしないけど、子供達の本音は知ってたから、けっこう辛いものがあった。

だからって、仕事を辞めて家にいるとかなんて出来ないし。

特に、一番下の子供はまだ小さかったので、すごく淋しかったんだと思う。

お姉ちゃんとの会話を立ち聞きしてしまった時、すごくそう思っ

た。

内容は、こんな感じ。

一番下：「新しいお父さんが欲しい。そうしたら、お母さんずつとお家に来てくれるよね」

お姉ちゃん：「それは無理だよ、お母さんモテないし。あきらめな〜」

お姉ちゃんの会話には、どうせお母さんはね〜って感じてはしたが  
(笑)

そんな状況下でも、少しでも子供と関われたらいいなあと思い、あたしが仕事に行く前には子供達に宛てて、今でも手紙を毎日書いています。(その日にやっておいて欲しいことを書くだけです)以前は、子供と交換日記をしていたこともありました。(さすがに、今では書いてくれませんが…)

あたしなりに、子供達に出来ることはしていたつもりなんですけど、母子家庭の弱味というのかな、子供が長期休暇(夏休みとか…)の時も、家においてあげることが出来ないんですよ。

あたしが仕事している間は、子供達だけで、留守番となってしまう訳で。

その間の出来事は、あたしには全くわからないし、子供達も大きくなると、いちいち何があったのかを逐一報告してくれる訳ではないんですよ。

ここが大きな落とし穴でして…。

あたしが仕事に行つて留守になると、子供の同級生が遊びに来ていたんです。

別に、遊びに来るのは全然構わないんですけど…ね。  
でも、あたしが家にいる時は、遊びに来た事は一度もないんですよ。

つまり、あたしがいない時間を狙って、遊びに来ていた訳で…。

もし、あたしが普段から家にいたのなら、子供の変化にいち早く気づいてあげられたかんじじゃないのかな…と思うと、今でも本当にやるせない気持ちでいっぱいです。

中学はなにもいい思い出がない、中学の時の同級生には会いたくない…という言葉聞いた時、本当に子供に申し訳ない気持ちになった。

だからかな、余計に専業主婦に憧れるのかも。

もっと子供達に、親らしい事、してあげたい…って。  
してあげたかった…って。

その後子供は高校に進学し、よい友達に恵まれ、就職した今でも高校時代の友達と仲良く遊んでいるのを見ると、すごくうれしい気持ちになります。

たくさん辛い思いした分、いっぱいいっぱい、楽しいことや幸せなことが訪れて欲しいと願わずにはいられません。

でも、あんな事さえなければ、中学時代も楽しく過ごせたんだろうな…とか思うと、子供に掛けてあげられる言葉が見つからない、情けない親です。ホント。

こんなダメな親だけど…、  
子供に苦勞ばっか掛けちゃって、ホントどうしようもない親だけ

ど…、

照れくさくて、面と向かって言えないけど、あたしの子供として生まれてきてくれてありがとう…って気持ちでいっぱいです。

もしあたしが生まれ変わったなら、また今の子供達のお母さんになりたいと思う。

そして、この世でしてあげられなかった事、してあげたかった事をしてあげたいなあ…って思っています。

いじめたという思いにと(前書き)

サブタイトル、変更しました。

## いじめについて思うこと

子供が小さいうちは、家族という社会の中で生活をしているので、いつでも親が子供を守ってあげることが出来ますが（最近は虐待のニュースが多いので、それも善し悪しなのかなあ…）、子供が成長するに従って、幼稚園なり保育園なり、小学校…と、子供の社会が広がっていくし、子供も一から十すべてを話してくれなくなるし、子供という社会の中で余計な知識も身につけていくので、いくら親でも、子供のすべてを把握出来なくなってしまう。

子供の成長…と捉えればうれしいことなのかもしれないけど、そういうことばかりじゃないのが現実で…。

いつの時代も『いじめ』があるし、ニュースでもよく報道されるけど、悲しい事に、いつになっても『いじめ』ってなくならないんですよね。

あたしが親になってみて、親がバカだから！？なのかな～と思う時もあります。（あたしが思ってるだけのことですが）

親になると、子供の関係するニュースには自然と目がいくようになります。

自分の子供と同年代だと特に…。

『いじめ』のニュースとか見ると、やはりツライ気持ちになります。

いじめられてた子供の気持ちも、親の気持ちもよくわかります。でも、悪い言い方になっちゃうけど、自分の子供が絡んでいなければ、所詮他人事なんですよね。

同情することなんて、いくらでも出来るし。

まさかうちの子が…、うちの子は大丈夫だろう…、などと思いた

いのが、親の本心だと思いますし。

あたしは子供達に、

・ 感じ方や捉え方は人それぞれだから、自分にはそういうつもりはなくても、相手を傷つけてしまう事があるから、自分がされて嫌な事は相手にも絶対してはいけない。

・ 世の中にはいろんな人がいるけど、人を馬鹿にしてはいけない。人を馬鹿に出来るほど、完璧な人間なんてこの世にはいないんだから。

・ 自分が苦手だなと思う人がいても、決して嫌だとは思わないこと。そういう思いは言わずとも相手にも伝わるから。それで険悪なムードになるよりも、少しでも相手のいいところを探すようにした方がいいよ。もしかしたら、違った一面を見つけられるかもしれないし。

・ 自分が他人にしてあげたことは、いい事も悪いことも自分に返って来る。

・ 理不尽ないじめとかで悩んでいる人がいたら、自分がしてあげられることはしてあげるように。

・ もし、自分がいじめとかを受けて、学校とかに行きたくなくなかったら行かなくていい。学校は勉強を学ぶところであって、ツライ思いをする為に行く所じゃないから。

などと言うような事を話しています。

そのかいあってか？、子供の同級生で、登校拒否になってしまった子がいた時に、うちの子供は毎朝その子を迎えに行っていました。なかなか一緒に登校出来ることなく、しばらく子供は一人で登校していましたが、子供の努力が実を結び、一緒に登校できるようになりました。

一緒に登校できるようになり、子供もすごく喜んでいましたし、登校拒否になってしまった子のお母さんもとても喜んでくれて、あたし

もめちゃうれしかったのを覚えています。

子育てしてて、こんなエピソードばかりなら、子育てってホント楽しい！！と思えるんでしょうけど、そうはいかないのが現実…（泣）

親からすれば、自分の子供がいじめを受けてる、いじめてる…なんて事とは関わりたくないのが本音です。

他人様に自分の子供を傷つけるなんて、大人でも子供でも絶対許せないし。（だからって、自分の子供を虐待するはいいわけではないけど）

自分の子供は大丈夫か！？って思って子供に聞くと、「大丈夫」の一言。

親ってバカ！？だから、子供の言葉を真に受けちゃうんですよね。うちの子は、『いじめ』とは無縁だった。

子供だって、嘘つくのにな。

## 親の無力さ

自分で言うのもなんですが、あたしはホントにダメな親です（泣）

性格は又ケ又ケしてるわ、空気読めないわ、態度じゃわからないから言葉で言ってくれ〜みたいな。

何度も、親辞めたいって思ったこともあります。

自分の無力さを思い知る度…ね。

親だからって、四六時中子供についてあげられるわけじゃない。  
い。

子供がツライ時など、代わってあげたくても代わってあげること  
も出来ずに、ただ見守るしか出来ない。

そんな時は本当にツライし、歯痒いです。

挙句の果てには、子供を産まなければ、子供にこんなツライ思い  
をさせなくて済んだのに…と、自虐的になってみたり。

だからって、お腹に戻すことも、殺すことも出来ない訳ですがね。

バカなあたしは、うちの子は、『いじめ』とは無縁だと思って  
いました。

子供の「大丈夫」という言葉を信用しきっていたんです。

でも、小さい頃から何かとトラブルに巻き込まれやすい子だった  
ので、気にはしていました。

見事に、悪い予感的中…。

中学校の担任から電話があり、子供がいじめに遭ってると聞かさ

れた。

すぐ子供に確認したけど、そんなことないよの一点張り。

子供もお年頃だし、あまりとやかく言うのもなんかなあ〜と思い、「わかった。お母さんはあんたの言うことを信じるから。でも、何かあったりしたら、すぐに話してね。」と言った。

普段、あたしは子供の言う事はすべて信じるけど、何かトラブルがあった時は、あたしが現場を確認出来ない限り、話半分しか信じません。

親なおかしくない?? 思われるかもだけど、親だからこそ…なんです。

親は自分の子供が可愛いから、どんな時でも子供の言う事を信じたいし、自分の子供に落ち度があれば、それは何かの間違いだと思いたいし、自分の子供に非があれば、うちの子に限ってそんなことはない…などと思いたい生き物だと思っんです。

でも、子供は成長していくに従って、嘘はつくし、親にはわからない部分や、把握しきれないところも増えてきます。

親ですから、子供に何かトラブルがあった時は、きちんと原因を突き止めて、二度と同じことが起こらないように解決したいと思うんです。いいことなら大歓迎ですが、悪い事だけは、何度も同じ事を繰り返したくないので。

そんな時に子供の言う事だけをすべて信じていたら、周りが見えて来なくなつて、本当の事がわからないまま、すべてうやむやになつてしまうので、そういうときに限っては、あえて子供の話は半分しか信じないようにしてるんです。

そうすることで、自分の子供の話にだけ固執することなく、周り

も見えてきますし、人の話も耳に入ってくるので。

いじめの話があった後も、子供は普段と変わりなく生活していた。学校が嫌だったら休んでもいいよ。とは言ったけど、一度も学校を休むことはなかったし、その後はいじめに遭っている…という話も聞かなくなったし。

子供の姿を見ていると、いじめに遭ってたなんて、何かの間違いだったのかな??とも思えた。

でも、それは嵐の前のほんの一時の静けさでしかなく、子供がいじめに遭っていたことや、いじめが続いていた事が発覚するまでに、そう時間がかからなかった。



## ひど過ぎる現実

子供達は冬休みに入った。  
でも、あたしは仕事。

そんなある日、仕事から家に戻ってみると、家の中が何か違う事に気づいた。

最初は???ってな感じだったけど、仕事に行く前と帰った後では、明らかに家の中がおかしい。

仕事が休みで家にいる時には、全然そんなことは感じなかったけど。

ある日、銀行に行こうと思って通帳を探したら、いつものところがない。

通帳に入金しようと思っていたお金も無くなっていた。

まさか…と思い、小銭を貯めていた貯金箱を見たら、貯金箱は空っぽ。

それになぜか、あたし宛の郵便物がすべて開封済みになっている。

もしかして…と思い、子供に聞いた。だした。

今なら虐待と言われるんじゃないかと思うくらい、めっちゃくちゃ怒った。

あたしがよほどひどい剣幕で怒ったからか、子供がぼつりぼつりと話し始めた。

いじめの主犯は、同じ部活のAだったって事。

同じ部活の子達は、Aのお兄ちゃんが怖いからって、みんなAの言いなりで、Aとぐるになっけていじめるって事。

あたしがいなくなると、Aは同級生や自分のお兄ちゃんを連れて家に来て、家中、クローゼットの中やたんすの中すみからすみまで漁って、お金を持って行った事。

ばれたらお前が使ったことにしろと、Aのお兄ちゃんに脅されていた事。

あたし宛に届いた郵便の封筒の中も、勝手に開封していた事。など…。

人様の家で、普通そこまでするか!?

最近のガキは、一体どんな教育受けてるんだよ!と、ブチ切れ状態のあたし…。

もし、子供がAのお兄ちゃんの言う通り、自分がやったと言ったとしても、一人でここまで出来ないわな〜という位の有様でしたから。

いじめの理由は、うちの子がサッカーが上手くないから…ってだけ。

あたしからすれば、はあ〜?ってな理由だった。

Aって子は、小学校の頃からの同級生で、小学校の低学年の頃よく遊びに来ていたのであたしも知っていた。

確かにAは、サッカーは上手だった。

だけどそれは、サッカークラブに入ってるからじゃん。

あたしの子供もサッカークラブに入りたいと言っていた時期はあったけど、母子家庭で食べていくだけでも大変だったので、とてもじゃないけど、子供の希望を叶えてあげることが出来なかった。

Aの家も、あたしと同じ母子家庭だったけど、子供三人をサッカークラブに入れていたけど、どこにそんな余裕があるのか、いつも

不思議でたまらなかつたけど。

それでも子供は文句一つ言わず、中学になったら部活はサッカーをやるんだってはりきっていた。

小学校の頃から始めた子と、中学校になって始めた子とじゃ、差があつたって当然なのに、自分達より上手じゃないからって事だけで、いじめの対象にするなんて、すごく許せなかつた。

あたしは子供の事をすごく尊敬していた。

親の都合で、小学校の時にサッカークラブに入る事が出来なかつたのに、夢を諦めずに、中学校になってサッカー部に入る夢を叶えてとても喜んでいた事や、毎日頑張っていたのを知っていたから。

とにかく、今の状況が続くことは子供にとってよくないと思い、子供の担任に相談し、今回の件に関わつた子供の親に集まつてもらい、学校で話し合いの場を何度も設けてもらった。

Aの親も、Aがあたしの子供をいじめているという話は知っていた。でも、「うちの子がそんなことする訳ない。」の一点張り。

お金のことにしてもそう。

お金を置いておくあたしが悪いと非難された。

Aの親は、「我が家はお金は置いていかないよ。お昼はその辺にあるものを勝手に食べてるんじゃないの?」と言つから、「そこだよ、そんなんだからお前の子供のお昼代が、我が家から勝手に出ていつてるんだよ。」と言つても、「うちの子がそんなことする訳ないでしょ。証拠もないくせに。」

この証拠もない…と言つのが、一番曲者なんですよね。

誰か、それを証明してくれる人でもいればいいんでしょうけど。

仮に、警察に被害届を出したとしても、警察が家の中を調べて証拠を見つけたとしても、加害者の子供を罰する事は出来ないのが現

実なんですよね。悲しいけど。

拳句の果てにはAの親は、「自分の子供が家のお金を盗んだからって、うちの子供達のせいにはしないで。」と言いつつ放った。

周りの親も、Aの親と同意見。

まるで、口裏合わせてるかのようにな。ね。

それもそのはず。

Aと周りの親は、子供がサッカークラブに入っていて、親同士が顔を合わせる度、話し合っていた。と、Aの親が言っていたから。

人って、一人の意見より、多数の意見の方を信じるんだよね。

だから、子供の担任も、あたしの言うこと何一つ信じてなかったわけ。

悪い言い方すれば、あんたらがやってることって『いじめ』じゃね!?

だからあんたらの子供達もぐるになつて、あたしの子供をいじめる訳だ…。

あたしが話し合いの中でそんな思いをして、子供もとても嫌だったんだろくな…って、改めて思った。

あたしはあたしなりに、自分が出る限りの事は精一杯した…つもりだった。

でも、何度話し合いを重ねても、何一つ解決しなかったし、お金が戻って来ることはなかった。

話し合いの成果があつてか?、要はあたしやあたしの子供と関わるとろくな事がないって理由なんだろうけど、今回の件に関わった子供達は我が家に来る事はなくなった。

家にある物の配置が勝手に変わったり、お金が無くなったり、手紙が勝手に開封されている事…などがピタリとなくなつたから。

だけど、それが結果オーライとは思えなかった。

結果的には、あたしは親として、子供に何一つしてあげられなかった訳だし。

その結果が、今でも、中学校の時の同級生とは会いたくない…という子供の言葉に表れているのかと思うと、自分の子供を守ってやる事が出来なかったあたしのふがいなさを、今になっても嫌というほど痛感する。

それと同時に、あの時あたしが取った行動は間違っていないかったか？

他にもいい解決策はあったんじゃないのか？

などと、あれこれ考えてみたりもするけれど、未だに答えは見つからないまま…。

シングルマザーだから、余計に…なのかな。

こういう出来事があった、あたしもたくさん悩んだけど、相談できる相手いなかったし。

子供に聞きたい事もたくさんあるけど、あえて聞かない。

子供にとっても、出来る事ならなかったことにしたい出来事だったと思うから…。



これでよかったのかなあ？

もしも過去に戻れるのなら、過去に戻ってやり直したい事いっぱいあるけど、過去に戻る事は出来ないから、嫌な出来事は早く忘れたい。

あたしは基本ノー天気だからか、嫌な事があっても次の日には、割とけろっとしている。

例えば、前日に子供を怒って気まずいまま朝を迎えたとしても、あたしは何事もなかったかのように、いつも通り「おはよー」っていう感じ。

過去に捉われて、いつまでもぎくしゃくしたまま嫌な気分です。すより、その方が全然気分がいいと思うので。

でも、子供のいじめの件に関しては、なかなかそういう気分にはなれなかったけど、努めて普段通りに、何事もなかったかのように過ごしていた。

それなのに、子供達の春休みが終わろうとする頃、思い出さなくてはいけなくなってしまった。

ある日突然、何の連絡もなく、いじめに関わっていたうちの一人の親が子供を連れて家に来たからだ。

「うちの子供が、2000円盗ったと言うので、2000円…」  
と言って、お金をあたしに渡そうとして来たので、あたしは、「盗られたのは2000円ばかりじゃないんです。返す気があるなら、なくなつたお金を全額返して下さい。それにね、あたしはお金をどうこう言ってるんじゃないんです。お金なんて、仕事すれば入ってくる訳だから。あたしは、どうしてこういうことになったのか、そ

の経緯を知りたいんです。」と言ったら、相手は黙ったまま。

あたしはそのまま話を続けた。

「我が家が母子家庭って事は知ってますよね。どれだけ生活が大変かわかりますか？そんな家からお金を盗むなんて、あなたの子供は最低だと思いませんか？」

と言うと、「いや、自分の子はそんな事はしないけど、子供がそう言うから…」と言うので、あたしは、「あなたは、自分の子供はそんな事はしないって思っているんですね？だから、さっきからあなたの話を聞いてても、謝罪の言葉一つないんですね？それならなぜ、2000円返しに来たんですか？あなたも、あなたのお子さんも、悪い事をしてしまい申し訳ない…って思って2000円返しに来たと言うのならあたしは受け取りますけど、もし、自分の子供は悪い事はしていないから、本当は2000円払う事に納得していないと思っているのなら、そんなお金を受け取ることは出来ません」と言うと、ドンピシャだったらしく、何も言わずに、2000円払う事なく帰って行きました。

こんな形で終了してしまったので、謝罪？だったかどうかはわからないけど、いじめに関わっていた中で、家に来たのはこの1件だけでした。

このような出来事があり、あたしはかなり子供達に厳しくなりました。

前々から言うてはいたのですが、親が留守の家には絶対に上がらないという約束を再徹底させました。

今回のような事はかりでなく、何かあった時に、子供達だけでは対処出来ない事もありますから…。

そして、『いつ、どこへ、誰と、何時に帰宅…』も再約束させました。

それと、抜き打ちで子供達の持ち物チェック。

見慣れない物があつたりすると、すぐ子供に問質しました。

子供達もそれはさすがにウザイみたいで、何かを買ったり、友達から誕プレとかもらったりすると、自分達から見せて報告してくれます（笑）

普段はあまりしないのですが、子供の携帯もチェックします。

子供のプライバシーは？なのですが、子供達には事前に、「お母さんは、あなた達を大人になるまで面倒見なくちゃいけない義務がある。携帯がらみの事件も多いし、何かあつたら困るでしょ？だから時々チェックするからね。もし、何かあつたら報告してね。」とは言っております。

子供達にそう言っている以上、もちろんあたしも出掛ける時には、子供達にちゃんと、『いつ、どこへ、誰と、何時に帰宅…』を伝えていきます。

何か買ったりもらったりしたら報告もするし、子供達が、あたしの携帯を見てることもあるので、「〇〇って人から、メール来てるよ〜。」とか言われる事もしばしば…。

プライバシーも何も無いけど、あたしはこれでいいと思っております。

あたしは、子供にこうなって欲しいな〜と思つたら、まず自分が子供にこうなって欲しいな〜と思うことをするようにしています。

例えば…、

あたしは、いちいち子供に、「いつ、どこへ誰とどこに行くの？それで何時に帰って来るの？…」なんて聞くのがめんどくさいんですよね。子供も多いし…。

だから、あたしは出掛ける時には、自分から子供達に言うようにしています。

すると子供達も出掛ける時には、あたしが聞かなくても、当たり前のように自分から言ってくれるので、ホント楽です。

子供のいじめとか経験して、ホントに辛かったし、後悔してる事もたくさんある。

過去に戻る事出来ないから、至らない親だけど、至らない親なりに、同じ事は繰り返さないように努力している…つもり。

もう20年近く子育てしているけど、子育てってホント難しい…。



## 後ろ髪引かれる思い

親からしてみると、子供はいくつになっても子供だなくって思います。

あたしの身長を超えようが、憎まれ口を叩こうが…です（笑）

親バカかもしれないけど…

子供がいくつになっても、風邪とか引いて寝込んだりして苦しそうな姿を見ると、出来る事なら変わってあげたい…、少しでも早く、元気になって欲しい…って気持ちに駆られます。

子供が苦しそうだったり、辛そうだったり…する姿は、見たくないですもんね。

これが、母性ってやつなのかな…って思ったりもしますが。

今の御時世は、働くお母さんや、シングルマザーも多いと思うので、子供が病気になると一大事ですよ。

子供なんて、何の前ぶれもなく、突然病気になったりしますから。家族や、親などの協力を得られたり、預かってくれる人がいればよいのですが、必ずしも、そううまく事が運ぶとは限らないのが現実…。

あたしの場合には子供を見てくれる人がいなかったもので、子供が病気になるったりすると自分で看ています。

が…、

ここで一番困るのは仕事です。

「子供が具合が悪いので、今日はお休みさせて下さい。」と一言会社に連絡すればいいのですが、どんな事情であれ、急に休みたい…とは言いにくいものです。

ましてや、仕事が忙しい時などは、休むことすら躊躇してしまいます。

過去に何回か、そういう理由で仕事を休んで、クビになった事も多々ありましたから…(泣)

でも、あたしにとっては、仕事と子供を量りにかけたら子供の方が重いので、仕事は休みますけど。

子供はあまり口にしません、普段あたしが仕事で家に居ないで、せめて具合が悪い時位は家に居て欲しいんですよ。いくつになっても…ね。

だからあたしも、そういう時位はせめて、一緒にいてあげたいと思うんです。

その点、今の職場はとても理解があるので、子供が多いあたしにとっては、とても働きやすいです。

だからって、いつまでも仕事を休む訳にはいきません。

急に仕事を休んだ…という事自体、会社にも迷惑を掛けてしまっている訳ですから、極力、休んだ次の日は、どんな勤務形態でも出勤を心掛けています。

そんなあたしの気持ちを知ってか、子供も欠席二日目になると、「仕事に行つていいよ。」と言ってくれます。

その気持ちはとてもうれしいのですが、やはり具合の悪い子供を家に残して仕事に行く…というのはとても気が引けます。

子供に余計な気を遣わせてしまって、申し訳ない気持ちにもなります。

せめてこういう時位、あたしの代わりに誰か子供の傍に居てあげて欲しいなあと思っんですが、シングルですから、そうはいかないんですよ。

仕方がないので、子供の体調によっては、子供の言葉に甘えてしまつこともしばしばあります。

そんな時の出勤は、ホントにツライです。

「病気の子供を一人家に残したまま出勤してホントにいいのか！？」などと自問自答したところで、答えが出る訳でもないし…。

そういう時の出勤は、時間が許す限り、なるべく午後から出勤するようにしています。

実はここがポイントでして…。

具合が悪い子供を一人にする…のは、とても不安です。

でも、不幸中の幸いというのか？、あたしは子だくさん（笑）

夕方位になると、一人、また一人…と家に帰って来て、面倒を見てくれるんです。

早く元気になるように…と、病気の時に少しでも食べれそうな物やポカリスエットを買って来てくれる子供もいるし。

そんな子供達に、あたしも随分助けてもらっています。

たくさん子供がいると何かと大変だけど、たくさんいるから…ならではだと思つんです。

あたしが普段家にいないので、子供達で協力して、家事やら…をやってくれているせいも、子供達の絆は固いです。

いいのか悪いのか、母よりも兄弟…ってな感じ。

仲良きことは美しきかな。



## 自然と身につくもの

あたしは基本、『家事』いうものが好きではありません。

必要に迫られて、やっている…というのが現状です（泣）

そのせいか、あたしのご飯を作ったりしている姿を見た人は、必ずと言っていい程、「意外だね〜。」とか、「ホントにご飯作れるんだ〜。」と言います。

実の親ですら、「あんた、煮物も作れるんだね〜。インスタント食品しか、子供に食べさせていないのかと思つてた…。」言う位ですから。

最近はあまりやりませんが、昔は『節約』という名の下に、パンを焼いたり、子供のおやつを作ったり、子供や自分の洋服を縫ったり、編み物をしたりしていました。

子供は親の背中を見て育っているようで、子供はご飯を作ったり、お菓子を作ったり…が、好きだったり、得意だったりします。

母子家庭だから、子供達も必要に迫られて会得したのかもしれないが、

今では、むしろ子供の方が料理が上手だったりするので、親としては立場なし…です。

でもそうやって、子供はいろいろな事を見聞きして、親が特別教えずなくても、自然といろいろな事を身に付けていくと思つています。しかし、子供が見聞き出来ない環境化にあると、子供は身に付けることが出来ないんですよね。

あたしは特別気にした事はなかったのですが…、

子供に、「お母さんって、いとことかいるの？」と突然聞かれま  
した。

「いるよ、前にお墓参りで会ったじゃん。」と言うと、「私に  
もいとことかいるの？」と聞くので、「いるよ。」と言うと、「  
私にもいとことかいたんだ。」と気のない返事。

「何でそんな事聞くの？」と聞き返すと、「私にはいないと思っ  
てた。いとことか知らないし。」と一言。

子供によくよく話を聞いてみると、クラスで、『いとこ』や『親  
戚』や『はとこ』など…を知らなかったのは、うちの子供だけだっ  
たんですね。だから、先生がきちんと説明してくれたようで、子供  
も頭では理解出来たみたいですが…。

片親だと、両親が揃っている家庭と比べると、どうしてもそっ  
うお付き合いが少なくなってしまうんですね。

ましてや、あたしの実家は、両親が離婚してからそういうお付  
き合いが希薄になり、今は無いに等しい状態なので、子供に親戚と  
かを紹介する機会もなければ、話す事もなかったんですね。

だから、子供達がお年玉をもらえるあては、あたしとあたしの親  
だけなので、その辺はちよつと、子供達には申し訳なかったりも  
するんですけど、ごめんなさい…って感じですよ。

ホントは、『親戚』…などという事も、自然に覚えていく事なん  
でしょうが、我が家の場合、そういう環境下になかったので、こ  
のような結果になってしまった訳で…。

でも、核家族化が進んでいる現在、これから先、あたしの子供達  
みたいな子供が増えていくのかな…などと思ったりもします。

学校の先生も、子供達に教える事が増えて大変だっ！

あたしからすれば、親戚付き合いとかがないというのは、わずら

わしさとか、気兼ねすることもないから、めっちゃいい

そういうお付き合いも大事かもしれないけど、あたしは遠慮。元旦那の実家が大家だったから、絶えず親戚の人がいて…、それはもう、離婚するまでホント散々でした。

だから、トラウマになってるのかもしれないけど。

余談ですが、あたしは箸の使い方がめちゃ下手です（泣）

だから、子供達に箸の使い方を教えた事はありません。

それでも、四人中三人は、まともに箸が使えています。

でも、一人だけは、あたしと全く同じ持ち方なんですよね。

親から子供への遺伝って、四分の一の確率かしら？などと思ってしまう。



生きていく上で、一番必要なものとは？

『健康』と言いたい。

仕事ができるのも、子育て出来るのも、やっぱり身体が資本ですからね。

汚い言い方になっちゃうかもだけど…

でも、やっぱり『お金』が一番かな。

健康でいるためには、きちんと食べる事が必要だし、食べる物を調達するにはお金が必要だし。

生きて行く為には、世の中すべて金…って感じ。

どんなにキレイごと言ったって、実際問題、金が無ければ何も出来ないですからね。

子供なんて、突然病気になったりするのに、金が無いから病院に連れて行けない…じゃ悲し過ぎるし。

今だから笑い話だけど、旦那といた時は、そんな思いしよつちゆうだった。

情けないけど、そんな時は実家でお金借りたりして、その場その場を凌いでいたけど。

旦那と離婚してからは、そう言う事を言わなくなったので、「離婚してから、あんた金貸してって言わなくなったね。」と、未だに言われるのは悲しいけど。

今の世の中を反映しているかのように、自殺だの、万引きだの、詐欺だの、ひったくりだの、窃盗だの…ってニュース多いけど、あたしは仕事が無くても、金が無くても、そういう事をしてお金を手に入れようと思ったことはない。

でも、自殺だけは、頭をよぎった事があつたけど。

旦那と離婚して間がない頃、旦那の置き土産が一番あたしを悩ませた。

こいつ、人の名義でこんなに借金してたのかよ…、いつになったら全額返済出来るんだ！？などと考えている時に、自分が今死んだらいくら保険金が出るか計算したりして…。

たつたの400万!?

これじゃ、残された子供達に何も金残してやれないから死ねないじゃん…という結論で一件落着!?

子供は、小さいうちは手がかかるけど、お金はあまりかからないでも、子供は大きくなると手はかからなくなるけど、金がかかるようになる。

子供が大きくなるにつれて、旦那の置き土産は大きな負担となつた。

いくら返済しても元金は減らず、利息だけ払っているような状態が続いていたから…。

一番上の子供が高校三年生になった頃、こんな生活してたらまずい…、そろそろ少しでもお金を貯めないと後々やばい事になりそう…と危機感を覚えた。

と同時に、いつまでも旦那の置き土産に付き合っているのがバカバカしくなった。

返済しなきゃ、金貯められるじゃん…ってね。

そこであたしは、消費者金融何社からか、取引履歴を開示してもらった。

もしかして、グレーゾーン金利ってやつ???と思い、おバカな頭を駆使して、合間をみては引き直し計算をしまくった。(その間は返済はわざと中断していたので、督促状が届いたりして面倒だったけどあえてスルー。)

そしたら…、

借金の返済終わってるじゃん！

おまけに、金額は多くはないけど過払い請求出来るじゃん！

ということ、早速請求開始！！

対応は会社によって様々で、すぐに引き直し計算してくれてお金を返してくれるところもあれば、「もう終わっていることですからお支払いは出来ません。」などという会社もあって、かなり手こずったりして時間もかかりましたが、何とか無事回収出来ました。ホントは弁護士さんをお願いすればもっと簡単だったのかもしれないけど、弁護士さんをお願いするお金がなかったんですね。

回収したお金は、子供の自動車免許の取得に充てる事が出来ました。

おまけに、返済が無くなった事で、生活もいくらか楽になりました。

それまでは、あたしの給料の半分近くのお金を返済に充ててましたから。

これなら、もっと早く過払い請求すればよかった(笑)



## 息子

あたしの第一子です。

予定日より、三週間ばかり早く生まれたので未熟児でした。今ではそんな面影がない位、大きくなりましたけど。

男の子はすぐ病気になる…とは聞いていたのですが、我が家も例に漏れず…。

小さい頃は気管支や腸が弱く、よく風邪を引いたり、嘔吐下痢症になったり…で、よく病院に通っていました。

病院へ行けば行ったで、また病気をもらってくる…の繰り返しで、手がかかったものです。

そんな病弱な息子でしたが、小学校高学年にもなると身体も丈夫になり、風邪とか引く事もほとんどなくなりました。

家が狭かったせいとか？、歩き始めは早く、一才前には歩いていました。

離乳食やトイレトレーニングは、割とスムーズにクリア！だったのですが、哺乳瓶やおしゃぶり大好きっ子なうえに、哺乳瓶の乳首やおしゃぶりの吸い口にこだわりがあり、決まった形の物しか受け入れないところがあつたので苦労しました。

でも、こんなに小さいながらも、ちゃんと自分のこだわりがあるのか…と感心したり。

子供はお腹の中の記憶がある…と聞いた事があつたので、あたしも息子に聞いてみたことがあります。

すると、

「おかあさんのお腹の中は、お風呂の中に入っているみたいだっ  
たよ。」

と言うので、やっぱりお腹の中の記憶ってあるんだな〜と思いな  
がら話を聞いていたら、

「僕は生まれる前には神様のところにいたんだよ。そしたら神様  
がおかあさんのところに行きなさい っって言ったから、僕はおかあ  
さんのところに来たんだよ。僕には妹が三人いて、神様のところで  
一緒に暮らしてたんだ。だから、妹が三人産まれるよ…。」  
と言うので、あたしは???状態。

この当時はまだ、息子一人しかいなかったし。

仮に子供の作り話としても、二つ三つの子供が、こんな話を作れ  
るほど賢いとは思えなかったし。

でもその後、息子の予言?通り、妹が三人産まれました。

その当時の話を息子にしても、今では、「そんな事言ってないし、  
知らない。」としか言いませんけど。

もともとおとなしく、口数の少ない子供ですが、我が家が女系な  
せいか?、おとなしさが際立って見えます。

成長の証なのか、あたしとは異性だからか、成長していくに従っ  
て、このままだと会話がなくなっちゃうんじゃないのか!?!と思う  
くらい、話すことも少なくなってきました。

でも最近は、昔と違ってかわって、趣味の話などで、会話や会  
話時間が増えて来ました。

息子の成長が一番感じられたのは、あごにひげのようなものを見  
つけてしまった時。

あゝ、もう子供じゃなくなって来てるのね…と、一人感慨にふけ  
ってみたり。

あたしが若くして母親になった事もあり、かなり至らない親で、

息子も中学まではいろいろあり…で大変な事もかなりあったけど、息子も高校に入学してからは、かなり落ち着きました。（大人っぽくなった!?)

テストが近くなると、必死で勉強していたり…などと、中学生の頃とはまるで別人のよう??

でも、息子のそういった努力が実を結び、この就職難の時代でも、大手の企業に正社員で就職出来たんだなあと思っています。

あたしは、明日の事すらどうなるかわからない、しがない派遣社員ですがね。

息子は、口では別に…とは言ってるものの、妹達がかわいいようで、妹達に、ホントよくしてくれていると思います。

雨に日には、誰に言われなくとも、妹を学校まで迎えに行ったり…とか。

初任給では、兄弟みんなで楽しめるように…と、妹達にゲーム機をプレゼントしていました。（あたしには、何もありませんでしたが）

あたしがあまりにも頼りなさ過ぎるからか?、妹達はとても息子を頼りにしています。

傍から見ると、父親のようだったり…!?(笑)

でも、子供達が仲良くしているのを見てみると、とても気持ちがいいし、すごく安心出来ます。

息子が社会人になった…ということ、あたしの中では、『子育て』という肩の荷が下りたような、そんな気がしました。

まだまだ子育てしなくちゃいけないのが、あと三人控えているのにね。

子供は成長していくに従って、学校…などの社会を経験し、着々

と大人になり、親離れしていく訳で…。

そんな子供の姿を見ながら、親も子離れしていかないといけない訳で…。

子育ての終わり？が近づいているあたしは、いつまでも子供ばかりに目を向けてばかりいないで、そろそろ自分の事にも目を向け始めてもいいかなあ…って思えてきたりもしています。

## 娘

あたしの第2〜4子は、みんな女の子です。

あたしの子供達はみんな、早産&未熟児でした。

お医者さん曰く、あたしの胎盤は人より小さいらしく、赤ちゃんに栄養が行き渡らないと…。

仮に満産期で出産したとしても、大きな子供は産まれないとの事。

息子は全くといっていいほど人見知りをしなくて、知らない人にも平気で行って行ってしまうような子供でしたが、娘達は全員人見知りかひどかったです。

娘達は『おしゃぶり』には全く興味を示さなかったけど、タオルケット大好きっ子達で、どこに行くにもタオルケットを引きずって持参しておりました。

特に長女はタオルケットLOVEで、タオルケットにもこだわりがあり、自分の気に入ったもの以外は一切受け入れてくれず、どんなに汚くても、あちこちから糸が出てぼろぼろでも、絶対手放さなくてホント大変でした。

洗濯しようものなら泣き叫ぶので、昼寝した際に洗ったりしていましたが、昼寝から起きた時が大変。

泣きながらあちこち探しまくり、干してあるのを見つけると、濡れててもいいからよこせ、という感じ。

しかたなく、濡れたままのタオルケットを渡すと、満面の笑顔。

さすがに今ではそんな事はないけど、やっぱりタオルケットは好き…というのか、あると安心するみたいで、今でも一年中使っています。

女の子は丈夫だから、育てるのが楽…と聞いていた通り、タオルケットの件以外は楽でした。

病気になることは、ほとんどなかったし。

でも、滲出性中耳炎で長々病院に通ったり、予防接種すると一ヶ月位腫れが引かない…とかいうような苦労はありましたけど。

とりあえず、大きなトラブルなどはなく、成長してるかな…という感じです。

女の子は大きくなると、服とかに金がかかる…言いますが、我が家はそんな事はないです。

今は身長差がなくなってきたので、洋服は親子兼用で着れま  
すし。

これだけが、若くしてお母さんになったメリットかも（笑）

だらしない母の元で育ったせいかな、娘達はホントにしっかりして  
ます。

息子やあたしの世話を焼く位…（笑）

料理や編み物や手芸…などもけっこう得意で、母より上手かも…  
です。

女の子の難点があるとするのなら、結構口やかましくて、はつき  
り物言うところかな。

「お母さん、その服似合っていない。」「…などなど。

まるで、小姑のようで、カチンと来る事もあったり。

でも、一緒に料理したり、お菓子作ったり…と、親子で共有でき  
る事もあったり…で、結構楽しかったりします。

子供は、いくつになっても可愛いです。

小さい時には小さい時の可愛さがあるし、大きくなったら大きくなつたでの可愛さがあるし。

だけど、もう自分の子供は要らないかな。

仮に機会があつたとしても…ね。

やっぱり、大きな子供が産めない体質って事がネックかな。

特に一番下の娘は小さくて、ペットボトル以下！？みたいな体重だつたうえに、危篤状態で生死をさまよっていたり…だつたので。

孫に期待!!…って感じですよ。

でも、後十年位はおばあちゃんにはなりたくないけど。

せめて、五十路位になつてから…みたいな(笑)と、わがままなあたしです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0041q/>

---

あだちさん

2011年3月6日21時55分発行